

授業科目 (科目ID)	遺伝子検査学 I		担当教員		高橋 智哉	
	23m132		(実務経験)		有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	遺伝と遺伝子との関係を学ぶ。細胞の構造と機能を学ぶ。染色体の構造、遺伝子の構造を学ぶ。遺伝子と疾患との関係を学ぶ。					
到達目標	上記授業目的の内容を説明することができ、遺伝子検査の倫理についても述べるができる。					
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「遺伝子・染色体検査学」(医歯薬出版) ・プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体10%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	10%				
その他	%					
履修上の 留意事項	①プリントや板書を中心に講義形式の授業を行う。②到達確認のためのプリントテストを行う。 2学年で引続き学ぶ遺伝子検査学や実習に向けての基礎である。この授業で遺伝子、染色体などについて使用される用語をしっかりと理解すること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題			履修内容	
	1	遺伝子の基礎①			細胞小器官の構造と機能を学ぶ。	
	2	遺伝子の基礎②			細胞分裂(体細胞分裂、減数分裂)について学ぶ。	
	3	DNAの基礎			DNAの構造について学ぶ。	
	4	RNAの基礎			転写、翻訳について学ぶ。	
	5	DNAの複製			DNAの半永久的複製、修復、校正について学ぶ。	
	6	染色体と遺伝子の突然変異			DNAの突然変異の原因について学ぶ。	
	7	遺伝病の原因と治療			遺伝子疾患と治療の基礎を学ぶ。	
	8	まとめと小テスト			まとめと小テスト	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	遺伝子検査学実習 I  23m133		担当教員  (実務経験)	高橋 智哉  病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	遺伝子解析に必要とされる機器・器具・試薬に関することを学ぶ。遺伝子検査に関するサンプルの収集・処理・保管などについて学ぶ。核酸の抽出について学ぶ。核酸増幅法の原理について学ぶ。電気泳動法について学ぶ。				
到達目標	特定の核酸の存在を証明する知識を述べることができ、また、その手技を実施できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「遺伝子・染色体検査学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	①レポートの得点を科目成績全体50%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体20%の評価点とする。 ③プリント提出を科目成績全体30%の評価点とする。		
	レポート	50%			
	小テスト	20%			
	提出物	30%			
その他	%				
履修上の 留意事項	①用意したプリント資料を基に実習を行う。②実習で使用、抽出する遺伝子は非常に微量であるのでコンタミネーションに注意する。 ③使用する機器・器具等は何時も清潔に保つこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	遺伝子検査の基礎①	遺伝子検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。		
	2	遺伝子検査の基礎②	遺伝子の取り扱いと保存について学ぶ。		
	3	遺伝子検査の基礎③	遺伝子検査の標準化と精度管理について学ぶ。		
	4	遺伝子検査の基礎④	遺伝子検査用試薬の準備		
	5	遺伝子検査の基礎⑤	遺伝子検査用試薬の準備		
	6	遺伝子検査の基礎⑥	遺伝子検査用試薬の準備		
	7	遺伝子の抽出①	DNAの抽出法(フェノール・クロロフォルム法)について学ぶ。		
	8	遺伝子の抽出②	DNAの抽出法(フェノール・クロロフォルム法)について学ぶ。		
	9	遺伝子の抽出③	DNAの抽出法(フェノール・クロロフォルム法)について学ぶ。		
	10	遺伝子の抽出④	DNAの抽出法(フェノール・クロロフォルム法)について学ぶ。		
	11	遺伝子の抽出⑤	DNAの抽出法(スピнкаラム法)について学ぶ。		
	12	遺伝子の抽出⑥	DNAの抽出法(スピнкаラム法)について学ぶ。		
	13	遺伝子の抽出⑦	RNAの抽出法(AGPC法)について学ぶ。		
	14	遺伝子の抽出⑧	RNAの抽出法(AGPC法)について学ぶ。		
15	まとめ	まとめ			

授業科目 (科目ID)	輸血・移植検査学 I  23m134		担当教員  (実務経験)	高橋 智哉  病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	輸血・移植検査の基礎を学ぶ。赤血球・HLAの検査原理を学ぶ。輸血にかかわる検査を学ぶ。					
到達目標	輸血が移植であることを理解し、検査方法と副作用について説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」(医歯薬出版) ・プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体10%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	10%				
その他	%					
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②後期に行う実習に向けて輸血・移植検査を理解すること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	輸血療法について①	輸血療法の適応範囲、血液製剤の種類について学ぶ。			
	2	輸血療法について②	輸血療法の適応範囲、血液製剤の種類について学ぶ。			
	3	血液型について①	ABO、Rh、その他の赤血球型について学ぶ。			
	4	血液型について②	ABO、Rh、その他の赤血球型について学ぶ。			
	5	輸血に必要な検査①	ABO、Rh血液型検査について学ぶ。			
	6	輸血に必要な検査②	不規則抗体検査について学ぶ。			
	7	輸血に必要な検査③	交差適合検査について学ぶ。			
	8	輸血に必要な検査④	その他の輸血検査について学ぶ。			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	輸血・移植検査学実習 I  23m135		担当教員  (実務経験)	高橋 智哉  病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	輸血前検査の「意義」と「手技」を学ぶ。				
到達目標	安心で安全な輸血が実施できるように正しい輸血検査ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	①レポートの得点を科目成績全体50%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体20%の評価点とする。 ③プリント提出を科目成績全体30%の評価点とする。		
	レポート	50%			
	小テスト	20%			
	提出物	30%			
その他	%				
履修上の 留意事項	①用意した輸血検査マニュアルを基に実習を行う。 ②結果から安全な輸血ができるかを正しく判断できるかがポイントである。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題			
	1	輸血検査の基本①		輸血検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。	
	2	輸血検査の基本②		輸血検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。	
	3	凝集見方①		輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。	
	4	凝集見方②		輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。	
	5	凝集見方③		輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。	
	6	凝集見方④		輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。	
	7	ABO、Rh血液型検査①		輸血検査で最も重要なABO、Rh血液型検査について学ぶ。	
	8	ABO、Rh血液型検査②		輸血検査で最も重要なABO、Rh血液型検査について学ぶ。	
	9	ABO、Rh血液型検査③		輸血検査で最も重要なABO、Rh血液型検査について学ぶ。	
	10	ABO、Rh血液型検査④		輸血検査で最も重要なABO、Rh血液型検査について学ぶ。	
	11	不規則抗体スクリーニング検査①		不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。	
	12	不規則抗体スクリーニング検査②		不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。	
	13	不規則抗体スクリーニング検査③		不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。	
	14	不規則抗体スクリーニング検査④		不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。	
15	総合実習		小テストも含めた総合実習		

授業科目 (科目ID)	臨床生理検査学 I  22m136		担当教員  (実務経験)	江畑 京子  病院検査部生理業務に従事し、 当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	心臓の構造と機能について学び、心電図・心音図・脈波について学ぶ。					
到達目標	心臓の機能と構造に加え、様々な心電図測定の方法および検査方法を理解し、正常および異常心電図の波形を判別できる。心音図と脈管検査について検査方法を理解し、心電図との関連も併せて説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」(医歯薬出版)					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	10%				
	提出物	%				
その他	10%					
履修上の 留意事項	①教科書や板書・プリントを中心に講義形式の授業を実施する。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	心電図①		心電図の歴史、心臓の構造と機能 (江畑)		
	2	心電図②		心電図波形の発現機構 (江畑)		
	3	心電図③		心電図波形の成り立ちと心電図の計測(江畑)		
	4	心電図④		心電図計測の実際・波形の表現方法(江畑)		
	5	心電図⑤		心電図の誘導法と誘導の意味 (江畑)		
	6	心電図⑥		正常心電図(江畑)		
	7	心電図⑦		心電計の原理と操作方法 (江畑)		
	8	心電図⑧		異常心電図波形の特徴と臨床的意義① (早坂)		
	9	心電図⑨		異常心電図波形の特徴と臨床的意義② (早坂)		
	10	心電図⑩		異常心電図波形の特徴と臨床的意義③ (早坂)		
	11	心電図⑪		異常心電図波形の特徴と臨床的意義④ (早坂)		
	12	心電図⑫		虚血性心疾患の心電図 (早坂)		
	13	心電図⑬		運動負荷心電図、ホルター心電図、特殊な心電図 (早坂)		
	14	心音図		心音図について (早坂)		
15	脈管検査		脈管検査の原理と検査法 (早坂)			

授業科目 (科目ID)	臨床生理検査学 I  22m136	担当教員  (実務経験)	早坂 宏之  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学病院検査部生理検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
授業形態	講義	担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	臨床生理検査学実習 I  22m137	担当教員  (実務経験)	江畑 京子  病院検査部生理業務に従事し、 当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	臨床生理学の機器の原理、操作方法、判読法を学ぶ。学生同士で検者と被検者になり、患者心理の理解および接遇を学ぶ。				
到達目標	心電図検査の準備、説明、測定と心電図波形の判読ができる。脳波計の準備、説明、電極装着、測定、判読ができる。換気機能検査の準備、説明、測定、評価ができる。眼底検査、平衡機能検査、聴覚・味覚・嗅覚検査を理解し、測定、説明、評価ができる。				
テキスト・ 参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床検査学講座「生理機能検査学」(医歯薬出版)</li> <li>スライド</li> <li>プリント</li> <li>心電計</li> </ul>				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	実技テストや試験、レポート、課題、実習態度などを評価し、コマ数の割合で配点し、総合的に判断する。 心電図: 試験50%、実技試験10%、レポート20%、実習態度10%、小テストと課題10%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	①それぞれの機器を使用し、グループに分かれ実習を行う。②講義で学んだことは必ず復習しておくこと。 ③知識と技術そしてコミュニケーション術の習得を目指すこと。④検査をする側、検査を受ける側の互いの立場を体験することにより、手順以外の生理機能検査に必要とされる情報も理解すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	心電図検査①	心電図検査の実際(検査環境、心電計の準備、被検者の対応、電極装置、波形の記録)座学		
	2	心電図検査②	心電図検査の実際(安静心電図)		
	3	心電図検査③	心電図検査の実際(安静心電図)		
	4	心電図検査④	波形の計測(安静心電図)		
	5	心電図検査⑤	心電図のアーチファクト(意図的に起こして心電図検査)		
	6	心電図検査⑥	心電図のアーチファクト(意図的に起こして心電図検査)		
	7	心電図検査⑦	アーチファクトの判断と対策(まとめ)座学		
	8	心電図検査⑧	心電図の電極の付け間違い		
	9	心電図検査⑨	心電図の電極の付け間違い		
	10	心電図実技試験	電極の付け間違いの波形の違い(座学)		
	11	心電図実技試験	対面で心電図検査を行う		
	12	眼底検査①	原理と基礎 (山田)		
	13	眼底検査②	実習 (山田)		
	14	緊急時対応①	実習 (三上)		
15	緊急時対応②	実習 (三上)			





授業科目 (科目ID)	画像検査学 I  22m138		担当教員  (実務経験)	早坂 宏之  大学病院検査部生理検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	診断に必要な主となる画像検査の基礎知識について学ぶ。特に臨床検査技師が扱う超音波検査を理解する。				
到達目標	超音波検査も含め、他の画像機器により総合的に疾患を診断することが説明できる。超音波検査における特徴的な超音波像を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」(医歯薬出版) ・必要に応じて資料を配付				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	①最高点を100点換算した得点を科目成績の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	①プリントや板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②上級年度で行う実習を想定して授業を受けること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	画像検査に使用される超音波、X線・その他電磁波	周波数、波長、伝播速度など波動の性質等について		
	2	レントゲン写真およびCT検査など	主にX線を使用した画像検査の概要		
	3	超音波検査①	超音波検査の概要、音場、指向性、パルス波、分解能など		
	4	超音波検査②	ドブラ法(PWDブラ法、連続波ドブラ、カラードブラ法)		
	5	超音波検査③	発信機、探触子(プローブ)、受信機、表示部、走査方式など		
	6	超音波検査④	アーチファクトについて(サイドローブ、多重反射、鏡面現象、レンズ効果、音響陰影、側方陰影、後方エコー増強など)		
	7	超音波検査⑤	まとめ(超音波検査実施の実際など)		
	8	MRIおよび熱画像検査	主に磁場およびその他の物理的・化学的原理を用いる画像検査の概要		
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	医療情報管理学  134		担当教員  (実務経験)	中島 克典  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 病院医事業務に従事し、 当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	①医療現場で利用されている情報管理システムについて学ぶ。②現場で生成された医療情報の利活用とヘルスリテラシーについて学ぶ。 ③医療情報・個人情報の保護について学ぶ。④情報の選択方法と伝達・確認、コミュニケーションについて学ぶ。				
到達目標	①医療情報システムにおける基礎的な業務知識を説明できる。②電子カルテの利点・課題や検査情報管理システムを具体的に説明できる。 ③個人情報保護に配慮した医療情報の利活用について説明できる				
テキスト・ 参考図書等	・これからのヘルスリテラシー(講談社) ・参考図書:臨床検査学講座「情報科学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	① 最高点を100点換算した試験得点を科目成績全体の40%とする。 ② レポート(2題)の点数を科目成績全体の30%とする。 ③ 小テスト、提出物、その他(講義への参加姿勢)をそれぞれ科目成績全体の10%とする。		
	レポート	30%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	①テキストに準拠して、原則、パワーポイントを用いた講義を行う。(講義資料はclassroomに掲載) ②医療システムの運用には病院全体の業務、診療の流れなどの理解、医療技術、情報活用に関する用語の予習・復習を行うこと。 ③参考資料を配付して医療情報の活用に関する社会的課題、問題点の把握のためレポート作成を行う。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	医療情報について	情報とはなにか、医療情報の定義		
	2	医療情報のセキュリティ	プライバシーと個人情報保護、データ保護、マイナンバー、改正個人情報保護法への対応		
	3	医療情報システム	医療情報システムの概要と主な機能、今後の課題		
	4	診療記録の電子化	電子保存三原則、電子カルテ等採用の意義と課題等		
	5	医療と情報の選択	医療情報の選択とヘルスリテラシー、コミュニケーションの機能		
	6	医療情報と意思決定	医療情報とバイアス、健康を決める力、		
	7	医療情報の活用と個人情報保護を両立できるか	グループ演習:グループ構成員との課題解決に向けての合意形成への取り組み方について学ぶ		
	8	総括	医療情報管理の現状を理解し、情報システムの役割と意義、情報セキュリティの重要性を再確認する。		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	医療安全管理学  23m141		担当教員  (実務経験)	高橋 智哉  病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	チーム医療の観点から医療事故防止について学ぶ。ヒューマン・エラーの考え方、感染制御、インシデントの対応などについて学ぶ。				
到達目標	医療安全について理解を深め、患者への安全な対応を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「医療安全管理学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	10%			
その他	%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②リスクマネジメント、感染管理は職場では重要なポイント。十分に学習すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	患者と技師とのかかわり①	接遇、インフォームド・コンセント		
	2	患者と技師とのかかわり②	チーム医療		
	3	リスクマネジメント①	インシデント・アクシデント		
	4	リスクマネジメント②	インシデント・アクシデント		
	5	感染対策①	感染対策の意義		
	6	感染対策②	標準予防策		
	7	感染対策③	ワクチン		
	8	感染対策④	実際の感染対策業務		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	医療安全管理学演習  22m141		担当教員  (実務経験)	星 直樹  病院検査部一般検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	検体採取の意義や方法を学ぶ。				
到達目標	医療安全について理解を深め、患者への安全な検体採取対応を行うことができる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「医療安全管理学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体20%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②リスクマネジメント、感染管理は職場では重要なポイント。十分に学習すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	検体採取①	採血の手順		
	2	検体採取②	シュミレーターを用いての採血		
	3	検体採取③	シュミレーターを用いての採血		
	4	検体採取④	シュミレーターを用いての採血		
	5	検体採取⑤	シュミレーターを用いての鼻腔・咽頭からの検体採取		
	6	検体採取⑥	シュミレーターを用いての口腔からの検体採取		
	7	検体採取⑦	シュミレーターを用いての皮膚からの検体採取		
	8	検体採取⑧	シュミレーターを用いての肛門からの検体採取		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					